

（様式１）実施報告書

１ 応募者情報

（１）応募者団体情報

団体名	群馬県
-----	-----

（２）都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

○指定の有無 有・無

○指定の内容

—

②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

—

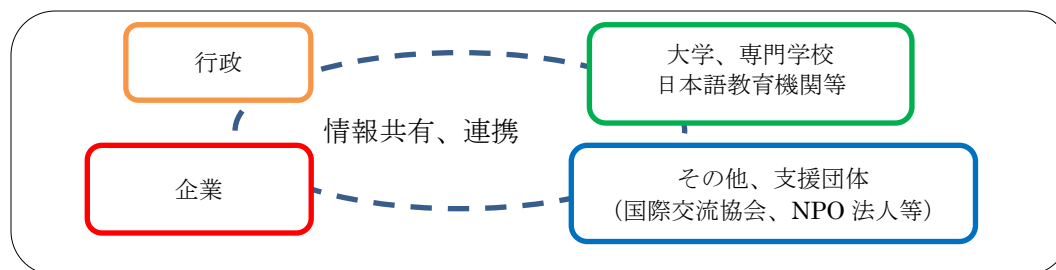
２ 事業の概要

（１）全体概要

①事業の名称	群馬県における地域日本語教育体制整備事業
②目的等	
1 目的 日本語教育に関する様々な関係者により総合調整会議を設置し、地域の課題を研究しながら本県における日本語教育の体制づくりを行う。大きな方針としては、従来から外国人住民が多く、「生活者としての外国人」に対する日本語教育を進めてきた地域に対しては、更なる外国人住民の増加とその多様化に対応できるよう取組を支援することを目的とする。また、日本語教育の取組が行われてこなかった地域に対しては、地域の状況とニーズを踏まえた上で、県内先進地域の取組を波及させ、日本語教育の芽出しを支援することを目的とする。	
2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像 【現在の状況：図示も可】 当該事業の着手前は、日本語教育に関わる各関係機関がそれぞれ独自に必要な日本語教育を進めてきた。	
行政 企業 大学、専門学校 日本語教育機関等 その他、支援団体 (国際交流協会、NPO 法人等)	

【構築を目指す体制：図示も可（上記に構築する体制を追記）】

当該事業により、日本語教育に関わる各関係機関が、全ての外国人県民に必要な「生活者として外国人」に対する日本語教育について、情報共有や事業の連携を行うことで、県内全域で、生活者としての外国人や地域のニーズに応じた取り組みを進められる体制を目指す。



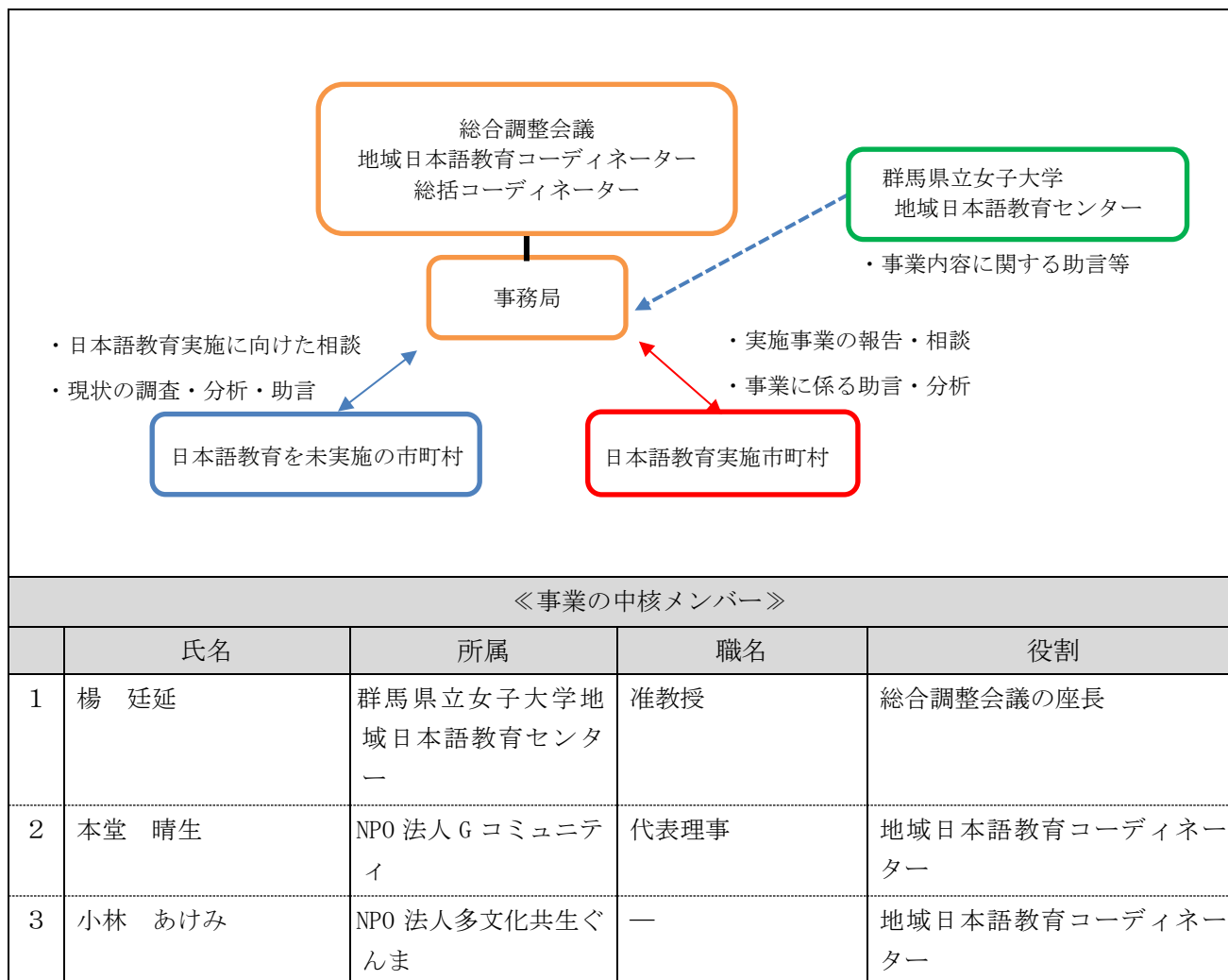
(2) 令和4年度事業の概要

①事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日（12カ月間）
②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）	前年度については、総括コーディネーターを1名配置し、3回の総合調整会議（構成員として新たに県域の国際交流担当、企業支援団体、教育委員会を追加）を行い、関係者が一堂に会することで、県内の日本語教育に関しての情報や、課題・問題点を共有することができた。 県事業として、日本語教育ボランティアの養成、スキル維持・アップに関する事業を実施できた。また、新規事業として、日本語指導者間で情報共有を行う日本語教育ミーティングを開催したことで、地域の日本語教室で実際に日本語指導等を実施している者同士の情報共有等を実施でき、日本語教室の活性化に繋がっている。 さらに、間接補助事業者として地域日本語教室を開催する市町村等は、前年度の2団体（交付決定は3団体）から4団体（交付決定は5団体）と増加した。 以上から、当該事業に関する計画は順調に進んでいると判断している。
③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）	成果については、①記載のとおり。 課題については、多くの日本語教室において人材不足、新型コロナウイルスによるオンライン日本語教室が模索中という状況であること。また、県として県内全域での日本語学習機会の提供を目指しているものの、地域によっては組織や予算の都合により日本語教室開催をする体制づくりが難しい市町村や地域の国際交流協会があること。
④令和4年度の目標	・日本語教育現場の状況を把握し、中間評価するとともに、県全体の日本語教育の方針を検討する。 ・人材不足の解消や、日本語学習支援者のオンライン技術の向上、地域日本語教室の更なる活性化を図る。
⑤令和4年度の主な取組内容	・日本語学習支援ボランティア養成事業 ・外国人日本語学習支援ボランティア養成事業 ・日本語教室ミーティング ・日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修

- ・市区町村・地域国際交流協会等が実施する日本語教室支援等

3 事業の実施体制

(1) 実施体制(図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。)



(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

- ・総合調整会議において、様々な日本語関係者と意見交換・情報共有を行うとともに、中間評価を行った。また、地域日本語教室ミーティングにおいて、地域日本語教育コーディネーターを活用し地域日本語教室関係者への助言や現場の状況把握をしつつ、県の方針を決定した。
- ・地域の日本語教室を運営する県内の各市町村・国際交流協会とは、意見交換・情報共有を行いながら、連携して取り組んだ。特に、本事業を活用して取り組む団体とは、密に連携した。
- ・日本語教室が未設置の地域には、情報提供や県実施事業への参加促進等を通じて、日本語教室の開設等を支援した。

4 令和4年度の実施内容

(1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	楊 廷延	群馬県立女子大学 地域日本語教育センター	准教授	議論のとりまとめ、全国の事例の紹介
2	松井 邦郎	(公財) 群馬県観光物産国際協会	事務局長	県国際交流団体からの意見
3	糸井 昌信	大泉国際交流協会	会長	日本語教室を実施する国際交流団体からの意見
4	本堂 晴生	NPO 法人 G コミュニティ	代表理事	日本語教育現場からの意見
5	栗田 政子	太田日本語教室あゆみの会	代表	地域の日本語教室側からの意見
6	若林 ヤスイ スエリ	NPO 法人伊勢崎日本語ボランティア協会	理事	外国人学習者としての意見
7	星野 美樹	有限会社農園星ノ環	労務管理担当	外国人を雇用する経営者としての意見
8	清水 太郎	群馬県商工会連合会	経営支援課長	外国人雇用企業への支援をする側からの意見
9	周藤 健司	群馬県教育委員会 義務教育課	補佐	家庭及び学外における子供の日本語教育に係る課題や対策
②実施結果				
実施回数	3回			
実施スケジュール	・第1回 令和4年4月28日(木) ・第2回 令和4年11月30日(水) ・第3回 令和5年3月3日(金)			
主な検討項目	・地域日本語教室ミーティング等で把握した地域のニーズへの対応 ・本県で目指すべき日本語教育体制についての提言 ・当年度実施事業に対する提言及び次年度に向けての取組内容の検討 ・群馬県の「基本的な方針」の検討 ・中間評価			

(取組②－１) 総括コーディネーターの配置
・関係機関との連携・協力が主たる業務となること、地域日本語教育コーディネーターもまだ少数であることから、引き続き事務局（群馬県）から選任した。 ・２名配置の地域日本語教育コーディネーターの取りまとめ等を担った。
(取組②－２) 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組
地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【()】 ・地域日本語教育コーディネーターを２名配置した。 ・活動地域は県内で最大の外国人人口を抱える伊勢崎市や前橋市を含む県中部（中毛）地域及び、太田市や大泉町の集住地域を含む県東部（東毛）地域とした。 ・地域日本語教室ミーティングにおいて、ニーズ、課題及びその教室の特性等の把握と助言等を行った。
(取組②－３) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置
取組なし
【重点項目】
(取組③) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組
・文化庁や県事業の情報提供、地域日本語教室に関する市町村への照会と要望の取りまとめ 日本語教室に関する文化庁や県事業を市町村等へ情報提供するとともに、本事業による補助を希望する教室等を把握し、間接補助事業者として来年度事業が実施できるよう取りまとめた。 ・地域日本語教室ミーティングの開催 地域日本語教室の関係者等が集まり意見交換や課題共有を行うためのミーティングを開催。地域日本語教育コーディネーターが進行を行い、助言や意見集約を担った。開催は、第１回を県内２地域（県中部、県東部）で、第２回をオンラインにより県全域で開催。 【対象】 地域日本語教室の代表者、当該地域の日本語教育機関の関係者・学習支援者、市町村の日本語教育担当者（オブザーバーとして参加） 【実施者】 群馬県 【実施回数】 ２回 【実施場所】 第１回：県内２箇所（県中部（前橋市）・県東部（大泉町）） 〔前橋会場〕 ７月３１日（日）、〔大泉会場〕 ８月２０日（日） 第２回：オンライン ３月７日（火） 【内容】 各教室の実施状況や課題の共有、課題解決に向けた意見交換、地域日本語教育コーディネーターによる助言等 【参加者】 第１回：１７人（２箇所合計）、第２回：１１人
(取組④) 市区町村への意識啓発のための取組
取組なし

(取組⑤) 日本語教育人材に対する研修

・日本語学習支援ボランティアの養成事業

主に日本語教室未設置地域で活動する日本語学習支援ボランティアの養成を行った。

【開催時期】①藤岡会場：10月1日（土）～11月5日（土） 全6回（1回2時間）

②沼田会場：10月2日（日）～11月6日（日） 全6回（1回2時間）

③オンライン：11月12日（土）～12月17日（土） 全6回（1回2時間）

【会場】①藤岡会場：藤岡市総合学習センター／②沼田会場：テラス沼田／③オンライン：Zoom

【対象】日本語教育に興味関心があり、地域日本語教室で活動する意欲のある者

【参加者】28人（①藤岡会場：10人／②沼田会場：10人／③オンライン：8人）

【実施者】群馬県（委託先：株式会社アッコーラ）

【内容】第1回：地域日本語教育とボランティアの心得、オンラインツールについて

第2回：日本語基礎知識とオンライン指導方法

第3回：日本語指導法

第4回：様々な学習者に合った指導法

第5回：模擬授業

第6回：ディスカッション-今後の活動のために-

・外国人日本語学習支援ボランティアの養成事業

地域日本語教育を担い、地域のキーパーソンとなる外国人日本語学習支援ボランティアの養成を行った。

【開催時期】6月26日（日）～11月20日（日）全11回（1回4時間、10・11回：2時間）

【会場】伊勢崎市紺の郷、伊勢崎市民プラザ

【対象】一定以上の日本語能力があり、地域の外国人住民へ日本語や生活に関する知識を教えることに
心のある外国人

【参加者】15人

【実施者】群馬県（委託先：NPO 法人Gコミュニティ）

【内容】第1回：在留外国人の現状と課題、外国人キーパーソンの役割・心構え

第2回：日本語指導者の心構え、日本語の特徴、日本語教育に関する用語解説

第3回：指導計画に必要な知識と準備、授業の組み立て方と実践

第4回：授業の組み立て方と実践、練習や教材の体験

第5回：日本語能力試験対策、技能別指導、レベルチェックの方法

第6回：対象による日本語支援の違い、教室運営やコース設定の方法

第7回：社会制度や社会生活の基礎知識、デジタル用語、企業の実態や要望、体験談

第8回：業種による日本語支援の違い、教材の考案

第9回：教材の選び方、ICT教材の活用、オンライン授業、模擬授業の準備

第10回・第11回：模擬授業、フィードバック

・日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修 活動中のボランティアのスキルアップのための研修を行った。 【開催時期】①第1回研修：9月27日（火）13：00～15：00（2時間） ②第2回研修：12月27日（火）13：00～15：00（2時間） ③講演会：10月15日（土）14：00～16：00（2時間） 【会場】①②研修：オンライン（Zoom）／③講演会：群馬県生涯学習センター 【対象】地域日本語教室で日本語教育に携わっている者、日本語教育に関心のある者等 【参加者】75人（①第1回研修：9人／②第2回研修：20人／③講演会：46人） 【実施者】群馬県（委託先：群馬県公立大学法人） 【内容】①第1回研修：「どうしてですか？みなさんの日本語教室・学習支援一対話・活動のためのアイデアと情報交換」 ②第2回研修：「日本語らしい発音と訂正フィードバックの方法」 ③講演会：「ボランティアができること、やるべきこと」
（取組⑥）地域日本語教育の実施 実施するものに○ ☐ 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育 ☐ 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育 取組なし
（取組⑦～⑭）その他の取組
取組なし
2. 市区町村の日本語教育の取組への支援
（取組①）市区町村を支援して実施する日本語教育
・群馬県にある3市町（前橋市、沼田市、大泉町）が実施する日本語教室に対して補助を行った。 （1）前橋市 【名称】前橋市在住外国人のための日本語教室 【目標】日本語教室を通じて、前橋市に在住する外国人の生活を支援し、多文化共生の地域づくりを推進することを目標とする。 【実施回数】90回（1回 1時間30分）うち、補助対象57回（1時間30分） 前橋市中央公民館（水曜日・土曜日 各曜日3クラス） 1期：24回 2期：23回 3期：13回 前橋市総社公民館（木曜日 1クラス） 1期：13回 2期：11回 3期：6回 【受講者数】102人（2か所） 【実施場所】前橋市中央公民館・前橋市総社公民館

【受講者募集方法】チラシ配布、市の広報誌・ホームページ、前橋市国際交流協会ホームページによる周知

【内容】受講する外国人が、日本語習熟レベルに応じたクラスで、日常生活に役立つ日本語を学習する教室。

指導は日本語教師が行う。

I 入門クラス：ひらがな・カタカナの読み書きができない人

II 初級クラス：読み書き、簡単な会話ができる人

III 中級クラス：読み書き、日常会話ができる人

【開始した月】 5 月

【講師】 9 人（うち日本語教師 9 人）

【関係機関との連携】 なし

「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし

（2）沼田市

【名称】沼田市在住外国人のための日本語教室

【目標】地域や外国人のニーズに応じた日本語指導を行い、地域共生推進に繋がること。

【実施回数】 5 6 回（1 回 1 時間 3 0 分）

【受講者数】 3 9 人（3 9 人×1 か所）

【実施場所】株式会社グリフエデュケーション

【受講者募集方法】市ホームページで周知、市民課窓口で転入外国人へ日程表配布、
沼田市国際交流協会の交流談話サロンで日程表配布

【内容】外国人住民のニーズに応じた日本語教育を行う。日本語教育の成果を確認し、実践する機会として、
沼田市国際交流協会主催の日本語スピーチ交流会へスピーカーとして日本語教室参加者が登壇する。

具体的な指導内容：受講者のレベルやニーズに応じた授業をしているため、内容はそれぞれ異なる。

【開始した月】 4 月

【講師】 1 0 人（うち、日本語教師 2 人）

【関係機関との連携】沼田市国際交流協会：協会が主催する「日本語スピーチ交流会」に、参加するよう受講者へ呼びかけしている。（詳細下記参照）

「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし

（参考）沼田市国際交流協会主催「日本語スピーチ交流会」

令和 4 年 1 0 月 2 3 日（日）、テラス沼田

発表者：5 人（うち、域内の日本語教室に通う外国人住民 1 人）

参加者：6 9 人（外国人 1 5 人）（うち、域内の日本語教室に通う外国人住民 5 人）

（3）大泉町（大泉国際交流協会へ補助金として交付）

【名称】大泉国際交流協会日本語講座通年コース

【目標】日本での生活に必要とされる日本語を習得すること

【実施回数】 128回（1回 2時間） 【受講者数】 98人（98人×1か所） 【実施場所】 大泉町公民館南別館 【受講者募集方法】 町広報、HP、一元的相談窓口での案内、チラシ 【内容】 日本での生活に必要な基礎的な日本語を学ぶための講座。個別指導形式で、受講生の日本語レベルを問わず、年間を通じて開催するため、受講生が各々のペースで学習できる。 【開始した月】 4月 【講師】 10人（うち、日本語教師 0人） 【関係機関との連携】 なし 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
（取組②）取組1以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育 ・群馬県にある4市（伊勢崎市、館林市、渋川市、安中市）の国際交流協会が実施する日本語教室や日本語教育に関する取組に対して補助を行った。 （1）伊勢崎市国際交流協会 ○日本語教室 【名称】 日本語教室 第1期・第2期 【目標】 日本語及び生活ルールを学ぶ学習機会の提供 【実施回数】 40回（10回×2講座×2期）（1回 2時間） 【受講者数】 95人（1期58人、2期37人） 【実施場所】 伊勢崎市緋の郷市民交流館 【受講者募集方法】 広報いせさき、市ホームページ、協会ホームページ、協会 Facebook、リーフレット配布 【内容】 日本語と生活ルールを学ぶため、市内在住または在勤の外国人住民を対象とした日本語教室を NPO 法人伊勢崎日本語ボランティア協会へ委託し開催した。 具体的な指導内容：第1回 オリエンテーション・レベルチェックテスト 第2回～第10回 各クラスレベルに合わせた授業を行う 【講師】 第1期10人（うち、日本語教師 2人）、第2期10人（うち、日本語教師 2人） 【開始した月】 5月 【関係機関との連携】 なし 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし 【名称】 オンライン日本語教室 前期・後期 【目標】 オンラインで日本語等を学ぶ学習機会の提供 【実施回数】 40回（10回×2講座×2期）（1回 2時間） 【受講者数】 28人（前期14人、後期14人） 【実施場所】 オンライン（ビデオ通話アプリを使用）

【受講者募集方法】広報いせさき、市ホームページ、協会ホームページ、協会 Facebook、リーフレット配布

【内容】日常生活に必要な日本語能力が十分でない外国人住民を対象とした日本語及び生活ルールをリモート環境で学ぶオンライン日本語教室を開催した。

具体的な指導内容：第1回 日本語レベルの確認

第2回 日本での生活で大事なこと

第3回 病気・病院

第4回 アパートでの生活

第5回 ゴミ

第6回 酒・たばこ・麻薬

第7回 スマホ・携帯電話

第8回 移動・乗り物

第9回 仕事

第10回 災害・事故対応

【講師】前期2人（うち、日本語教師 2人）、後期2人（うち、日本語教師 2人）

【開始した月】7月

【関係機関との連携】なし

「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり

○日本語教育人材に対する研修

【名称】日本語ボランティア講師養成講座

【目標】日本語学習を支援するボランティアを養成

【実施回数】10回（1回 2時間） 12月～2月

【受講者】17人

【講師】1人（うち、日本語教師 1人）

【実施場所】伊勢崎市絆の郷市民交流館

【受講者募集方法】広報いせさき、市ホームページ、協会ホームページ、協会 Facebook、リーフレット配布

【内容】地域における日本語教育の推進を図ることを目的に、外国人住民等の日本語学習を支援するボランティアを養成する講座を日本語教育機関へ委託し開催した。

「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし

（2）館林市国際交流協会

○日本語教室

【名称】館林市国際交流協会日本語教育推進事業（日本語教室）

【目標】地域の日本語教育を推進することで、外国人に幅広い日本語学習の機会を提供する。

【実施回数】119回（毎週4回、1回 1時間30分）

【受講者数】 90人（長屋門：25人、分福公民館：15人、城沼公民館：50人）

【実施場所】 長屋門、分福公民館、城沼公民館

【受講者募集方法】 チラシ、ホームページ

【内容】 教室内へのアクリルパーテーションの設置など感染対策を講じ、新型コロナウイルスの影響により休止していた対面型の日本語教室を再開した。教室ではボランティアの講師が生徒の習熟度に合わせて日本語の指導を行った。指導者1人に対し生徒は1～3人程度であり、一から日本語を学ぶ生徒から、会話はできるが読み書きができない生徒、日本語検定取得を目指す生徒まで様々なレベルに対応することができた。

【開始した月】 6月

【講師】 19人（うち日本語教師 3人）

【関係機関との連携】 なし

「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし

○日本語発表会

日本語学習意欲の向上につなげることを目的とし、市内小中学校や日本語教室での日本語学習者が日頃の学習の成果を発表する場を提供した。

【開催時期】 3月5日（日）10：30～12：00（1時間30分）

【会場】 西公民館講堂

【対象】 市内在住・在勤・在学の日本語学習者

【参加者】 発表者22人（小中学生15人、一般7人）、観覧者50人

【内容】 10：30 開会、主催者挨拶

10：35 発表（22人）

11：30 賞状授与

11：35 講評

12：00 閉会

○日本語教室研修旅行

市内日本語教室に通う生徒を対象としたバス旅行を実施し、日本の歴史・文化を体験する機会や、訪問先施設の窓口や飲食店等において日本語でコミュニケーションを取り身に付けた日本語を生活の中で使用する機会を提供した。訪問に先立ち、生徒たちは日本の文化・歴史について事前学習を行った。

【開催時期】 11月20日（日）7：00～18：45

【行先】 鎌倉・東京タワー

【対象】 日本語教室生徒・講師

【参加者】 28人

【内容】 鶴岡八幡宮見学、小町通り散策、鎌倉大仏・高德院見学、東京タワー見学

(3) 渋川市国際交流協会

【名称】 渋川市在住外国人のための日本語教室

【目標】 本事業を通じ、在住外国人の日本語力向上を図る。

【実施回数】 66回（1回 1時間30分）

8月・祝日を除く5月～3月の毎週火曜日に実施

（昼の部）10:00～11:30、（夜の部）19:00～20:30

【受講者数】 34人（昼の部：12人×1か所、夜の部：22人×1か所）

【実施場所】 渋川市国際交流協会

【受講者募集方法】 渋川市国際交流協会ホームページ、募集チラシ等で募集実施

【内容】 日常会話からひらがな・カタカナ・漢字の学習

【開始した月】 5月

【講師】 17人（うち、日本語講師 0人）

【関係機関との連携】 なし

「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし

(4) 安中市国際交流協会

○日本語教室

【名称】 安中市在住外国人のための日本語教室

【目標】 日本語ボランティアによる日本語教室を開催することで、在住外国人が日本語を学習する機会を確保する。

【実施回数】 452回（1回 1時間～1時間30分）

【受講者数】 41人（3か所）

【実施場所】 国際交流ハウス、会社・会社のアパート

【受講者募集方法】 日本語ボランティアグループ等が独自で募集活動を行う。

【内容】 日本語ボランティアが地域に在住する外国人を対象に、外国人の日本語のレベルに合わせ、それぞれの課題意識に基づき個別に日本語指導を行った。

【開始した月】 4月

【講師】 9人（うち、日本語教師 0人）

【関係機関との連携】 なし

「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし

○日本語教育人材に対する研修

【名称】 日本語ボランティア養成講座

【目標】 日本語ボランティアの教え方のレベル向上と、日本語ボランティアについて多くの人に知ってもらうことで人員の増加を図る。

【対象】日本語ボランティアに興味ある人、日本語ボランティアを始めたい人

【開催時期】 12月18日（日）10:00～11:30（1時間30分）

1月22日（日）10:00～11:30（1時間30分）

【会場】スマイルパーク

【参加者】32人

【講師】高橋 知子(のりこ) 氏

【内容】日本語ボランティアに興味のある人等を対象として、在住外国人に「生活するうえでの必要な日本語」を教える心構えや実際の教え方などについて学んだ。

- ・在住外国人の状況
- ・地域日本語教室の現状及び問題
- ・日本語ボランティアの役割 など

【受講者募集方法】安中市広報・募集チラシの配布

○日本語スピーチ交流会

【目標】日本語教室で学んだ成果を発表する場を設けモチベーションの向上を図るとともに、日本人との交流を深めて相互理解を図る。

【開催時期】11月13日（日）

【参加者数】45人（うち、発表者9人）

【実施場所】安中市文化センター

【内容】日本語教室で学ぶ外国人が、日頃感じていることなどを日本語でスピーチし、学習の成果を発表し、日本人との交流をはかった。

3. 「日本語教育の推進に関する法律」第11条に基づく基本的な方針の作成

（取組①）基本的な方針を作成する上で必要となる委員会の設置

取組なし

（取組②）委員会における審議の基礎資料とするための調査実施

取組なし

（取組③）委員会における調査審議を踏まえた基本的な方針の作成

取組なし

5. 主要な取組の実施状況

令和4年4月	総合調整会議（第1回）（群馬県） 日本語教室（沼田市）～3月 日本語教室（大泉町）～3月 日本語教室（安中市国際交流協会）～2月
5月	日本語教室（前橋市）～2月 日本語教室（第1期）（伊勢崎市国際交流協会）～7月

	日本語教室（渋川市国際交流協会）～3月
6月	外国人日本語学習支援ボランティア養成講座（群馬県）～11月 日本語教室（館林市国際交流協会）～3月
7月	地域日本語教室ミーティング（第1回・前橋会場）（群馬県） オンライン日本語教室の実施（前期）（伊勢崎市国際交流協会）～9月
8月	地域日本語教室ミーティング（第1回・大泉会場）（群馬県）
9月	日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修（第1回）（群馬県） 日本語教室の実施（第2期）（伊勢崎市国際交流協会）～11月
10月	日本語学習支援ボランティア養成講座（群馬県）～12月 日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修（講演会）（群馬県）
11月	総合調整会議（第2回）（群馬県） 日本語教室研修旅行（館林市国際交流協会） 日本語スピーチ交流会（安中市国際交流協会）
12月	日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修（第2回）（群馬県） オンライン日本語教室の実施（後期）（伊勢崎市国際交流協会）～2月 日本語ボランティア講師養成講座（伊勢崎市国際交流協会）～2月 日本語ボランティア養成講座（安中市国際交流協会）～1月
令和5年1月	—
2月	—
3月	総合調整会議（第3回）（群馬県） 地域日本語教室ミーティング（第2回）（群馬県） 日本語発表会（館林市国際交流協会） 事業終了、実績報告書の提出

5. 評価と検証

1. 令和4年度の計画の評価と検証方法
【令和4年度の目標】（再掲） ・日本語教育現場の状況を把握し、中間評価するとともに、県全体の日本語教育の方針を検討する。 ・人材不足の解消や、日本語学習支援者のオンライン技術の向上、地域日本語教室の更なる活性化を図る。 【令和4年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】 本事業では、日本語教育現場の状況把握や県全体の方針の検討、日本語教育人材の確保やオンライン技術の向上のために、以下の取組を主たる取組として実施した。 ・有識者や日本語教育関係者による評価と方針の検討（総合調整会議） ・地域日本語教室関係者の交流の場創出とコーディネーターによる助言（地域日本語教室ミーティング） ・新規日本語教育人材の育成（日本語学習支援ボランティア養成講座）

- ・既存の日本語教育人材の資質・能力向上のためのスキルアップ研修の実施（日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修）

これらを有機的に連携するための指標として以下の点から評価を行った。

【指標１：定量評価目標】

日本語学習支援ボランティア養成講座（日本人・外国人）受講者数

※オンライン技術等を学ぶ講座内容や開催方法で実施

○目標値 45人（前年 45人）

○実績値 43人

○評価 目標数には若干欠けるが、ほぼ達成することができた。

【指標２：定量評価目標】

本事業を活用し、地域日本語教室を開催した市町村等数

○目標値 6団体（前年 4団体）

○実績値 7団体

○評価 目標を上回る数の団体が本事業を活用した。

【指標３：定性評価目標】

本事業を活用した市町村等の満足度

○目標値 60％（前年 測定なし）

○実績値 71％

○評価 目標を達成した。

【指標４：定量評価目標】

地域日本語ミーティング 日本語学習支援者の参加者数

○目標値 40人（10人×4回）（前年 21人）

○実績値 28人（3回）

○評価 実施回数が予定より少なかったため、目標に達しなかった。

【指標５：定量評価目標】

日本語学習支援スキルアップ研修参加者数

※オンライン技術等を学ぶ講座内容や開催方法で実施

○目標値 40人（20人×2回）（前年 27人）

○実績値 75人（3回）

○評価 予定より1回多く実施したこともあり、目標を大幅に上回った。

【検証方法】 指標 1、指標 2、指標 4、指標 5 については、本県において数値を把握した。 指標 3 については、本事業を活用した市町村等へ年度末にアンケート実施する。 【その他】 なし
2. その他、令和 4 年度事業の評価と検証方法
【取組③】地域日本語ミーティング (定性評価) 日本語学習支援者の参加者の満足度 今年度実績 81.8% (検証方法) 事務局による人数集計とアンケート・実施結果検証

6 検証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望
(1) 検証を踏まえた課題 下記の課題がある。詳細や対応については後述。 ①地域日本語教室の安定的運営と活性化 ・新規人材の養成と既存人材のスキルアップ ・オンライン学習支援環境の整備 ・関係者の情報交換や課題共有 ②日本語教室未設置地域での日本語教育推進 ・新規人材育成 ・市町村や地域国際交流協会への支援 (2) 今後の展望 ・総合調整会議の充実 群馬県の地域日本語教育環境整備方針や各事業実施に、関係各所の意見を反映させられるよう、適切な時期と内容で会議を開催する。また、必要に応じて委員の増員や見直しを行う。 ・地域日本語教育コーディネーターの活用 地域の教室が抱える課題や必要としている支援等を的確に把握するため、地域日本語教育コーディネーターによる巡回訪問を実施する。 ・地域日本語教室の連携 地域の日本語教室の関係者等が集まるミーティングを開催し、各教室が抱えている課題や情報共有を図る。地域日本語教育コーディネーターが進行をリードし、課題の集約や助言等を行う。従来は地域を限定して開催していたが、次回は全県を対象に開催し、より多くの関係者に参加を促したい。会議後にも連携ができるよう、相互に関係づくりができる方法を検討する。

- ・日本語学習支援ボランティア養成講座（日本人・外国人）

空白地域で活動できる人材の発掘が目的であることから、新規地域でのボランティア養成を行う。修了後の活動につながるよう、開催地域の自治体や国際交流協会と協力して開催する。併せて、オンライン開催による空白地域の解消を視野に、オンラインで日本語学習支援を行えるボランティアを養成するため、内容や方法を工夫する。外国人日本語学習支援ボランティアについては、地域のキーパーソンとなりうる人材を養成する。

- ・日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修

すでに日本語学習支援ボランティアとして活動している者が、スキルの維持・向上を図ると共に、今後の活動継続意欲の向上につながる内容で実施したい。また、活動から遠ざかっている者や興味はあるが知識がない者にも有益なものとなるよう、広く周知し参加者を募集する。

- ・市町村等の支援による日本語学習支援

すでに日本語教室が開設されている自治体には安定運営や活性化のため、また空白地域には日本語教室の開設のため、情報提供や本事業の活用促進等の支援を行う。

2. その他、課題と困難な状況への対応方法等

（1）課題と困難な状況への対応方法

①地域日本語教室の安定的運営と活性化

- ・新規人材の養成と既存人材のスキルアップ

地域日本語教室を安定的に運営するため、新規人材の養成及び既存の人材へのスキルアップ研修を実施した。新規人材養成については、2種類の講座を開催し目標に近い人数を養成したが、養成した人材を日本語教室での実践につなげることが課題である。スキルアップ研修については、予定よりも多く研修を実施することができ、目標を大幅に上回る人数にスキルの維持と向上の機会を提供することができた。

- ・オンライン学習支援環境の整備

新型コロナウイルス感染症対策や遠隔地への対応として、オンラインでの日本語学習機会の整備が求められるが、日本語学習支援者のオンライン技術の向上が課題である。学習支援者のオンライン学習支援技術の向上のため、養成講座の内容にオンライン学習支援方法を取り入れた。また、実践で操作に慣れる機会を増やすため、一部の講座や研修、ミーティングをオンラインで開催した。今後対面での教室が再開してもオンライン学習は需要が高いため、支援を継続していく必要がある。

- ・関係者の情報交換や課題共有

地域日本語教室関係者が相互に状況を把握し、課題を共有して解決を図るため、地域日本語教室ミーティングを開催した。4回の開催予定を、2回の対面開催（県中部地域・東部地域で各1回開催）と1回のオンライン開催の計3回へ変更して実施したため参加人数は目標に達しなかったが、参加者の満足度は高かった。状況の似ている近隣の教室や状況の異なる遠方の教室など様々な参加者からの情報共有や、地域日本語教育コーディネーターからの助言により、各教室の課題解決に寄与することができた。日頃からの教室連携の活性化が課題である。

②日本語教室未設置地域での日本語教育推進

- ・新規人材育成

学習支援者養成講座を、未実施の地域で開催した。また、距離に関係なく参加できるよう、全回オンライン開催のコースを今年度初めて実施した。実践へつなげることが課題。

・市町村や地域国際交流協会への支援

日本語教室未設置自治体が令和５年度に日本語教室を開設するにあたり、情報収集へ協力し、地域日本語教室ミーティングへの参加を促した。ミーティングは、県内各地で活動する学習支援者の経験や知識、地域日本語教育コーディネーターの知見や助言等が教室運営に向けて役立つと大変好評だった。

その他、県内市町村及び地域国際交流協会への各種情報提供や本事業への参加促進等を行った。本事業活用団体は昨年度から３団体増と、目標を上回ることができた。日本語教室未設置地域が減少するよう支援を継続する必要がある。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
1-③	地域日本語教室ミーティング
	
1-⑤	日本語学習支援ボランティア養成講座
	

1-⑤	外国人日本語学習支援ボランティア養成講座
	
1-⑤	日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修
	

【参考資料一覧】

取組番号	資料名	NEWS 掲載
①－ 1	群馬県地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業中間評価	○